

1. 新世言「心の反転」 丸山敏秋 倫理研究所理事長 65歳 (P10~13)

共感の心が増量して行けば、人生は喜びにあふれたものになる。逆に反感の心が増量すると、人生はトゲトゲしく潤いを欠いた淋しいものになる。実はそのように心を共感へと反転させる教えが、「純粹倫理」という生活法則です。倫理研究所の創立者、丸山敏雄は、自身が大きな心の反転を幾度も経験した人です。最も痛烈な体験は、戦時中に謂れなき不敬罪の嫌疑で投獄され、二カ月余に及び激しい拷問を受けた時のことです。ビールの苦さが、実は苦くないように、憎む心、怒る心、恐れる心が毛頭も無ければ、痛みは痛みでなくなるのである。苦しみ痛みを除くのではない、苦しみそのものが正しく喜びに変わる。緑が紅にもみじするるのである。人は他者に共感同化して一体になると、小さな自己を超えることができるのである。

2. 実践の軌跡「お母さん、わが夫と心を通わせませす」川島友子さん 32歳 石川県 (P14~23)

6年前に結婚し、アルバイトをしながら新婚生活を楽しんでいましたが、いじめに遭い転職、その後もことごとくいじめに遭い、心の病になり自殺さえ考える状態で、実家に帰りました。暫くして母から「一度でいいから『おはよう倫理塾』に出てみない？」と誘われ、思い切って参加しました。それから数日後、講師が、親に思っていることを素直に聞いてみましょうと言われて、幼いころの記憶がフツと脳裏に浮かびました。「私はいらぬ子、両親に愛されていないのでは」という疑念でした。以前母から、祖母と父は私を生むことに強く反対し、母は反対を押し切って出産したと聞いています。講話を聴いた夜、私は思い切って母に「私のことを愛しとる？」と聞きました。母は目を丸くし「愛しとるに決まっとる。あんたも兄弟皆も」私だけに愛情を向けてほしいと思いい「私、生まれてこん方がよかった？」と重ねて聞きました。沈黙のあと母が「あんたのこと生まない方がよかった？ごめんね…」と、涙を流しながら言いました。私は母の姿を見て、なんて親不孝なことをしてしまったのだろうと反省しました。翌朝、母といつも通り挨拶ができ、わだかまりがスーッと消えていくのを感じました。それからは、私は愛されていたんだと思えるようになり、少しずつ自分に自信が持てるようになりました。人は誰かと繋がっていると実感できて、自信を持って生きられます。過去を肯定し、明るく元気に生きましょう。

3. 実践の軌跡「夫とつながり、両親が喜ぶことを」 薄井恵子さん 54歳 鳥取県 (P24~33)

心の奥には、かつてお酒を飲んで暴れる父を恨む気持ちがありました。しかし、後にそれが誤解であったと気づき「詫び」の実践として、亡き父に毎日ハガキを書き続けました。そして、笑顔で「そんなに謝らなくてもええ」と言ってくれる父が臉に浮かびました。生きることへの確信を得て、やがて真の両親の望みに気づきます。それは、両親が笑顔になること、すなわち自分自身が幸せになることでした。人を幸せにするには、まず自分が幸せで笑顔でいることです。筆文字の仕事をしているのも、母が私の字を褒めてくれたから、母を喜ばせる仕事を選んだと気づきました。夫も私より心が広く、大きな愛で私のことを包んでくれていることに感謝できました。

4. 明日へのエール「単に見ず、相手の心境にも目を向ける」和田毅倫研理事 57歳 (P50~53)

ある日、妻から「あなた、私のこと見ていないでしょう！」と叱られた。見ているといくら言っても応じてもらえない。その意味が分かり降参しました。その時妻は、一カ月前の誕生日にプレゼントした服を着て、私に謝意を表そうとしたのでした。心の有りようで見え方が変わります。身近な人で見る目を養う実践をしましょう。

5. 私の研究から 研究者としての「聞き書き」の魅力 松本亜紀専門研究員 42歳 (P54~57)

聞き書きは、生身の人間の真実ともいべきものに迫る重要な方法。女性の産む力の尊さを解き明かしたい。

6. わくわく子育て親育ち「朗らかな言葉は、自分も子供達も良くなる」内田靖士研究員 36歳 (P58~61)

言葉の朗らかな人は健康であり純情です。親の言葉遣いが変わると、子供の人生さえも変わって行く。

子育てワンポイントアドバイス (幼児編) 「アトピーから教えられたこと」(P61)

適切な治療を受けた後は、親自身の生活を振り返ることが大切。生活指導の4項目を実践。夫婦仲良く大事。

今日は凄い日だ！平昌五輪で、日本最初の金メダルを羽生結弦選手が大苦難を見事に乗り越えて勝ち取った。そして宇野昌磨選手も銀メダルに輝いた！将棋界では藤井聡太5段が、公式戦で初優勝し中学生6段に。奇跡！